

CUREとCARE

医療と福祉

物事を説明するときの便利なルール

- 誰が説明するのか？（ふつうは私が、ですね）
- （説明する）対象は何か＞簡単に対象と覚えておきましょう
- （説明の中身を知る目的）存在の意味（役立ちどころ）か、成り立ち（仕組み）＞目的と覚えましょう
- （説明する中身の具体的な）内容＞何をするのか？どういう構造になっているのか＞内容

CURE

治療する

治せる病気



治せない病気



CURE に必要な優先度の高い知識とは

病理学(pathology)－治療のための基盤

- 病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問
- 病理学 は肉眼的、組織学的形態学を基盤としている。
- その長い学問的發展の歴史において常に他の学問（例えば、解剖学、生理学、物理学、化学、微生物学、免疫学、遺伝学、分子細胞生物学など）から影響を受け、新しい方法論を提供され、取り入れてきた。

- 多くの病気の病因解明はそれらの新しい技術を駆使して達成されてきた。
- 病理学の発展にとって、最も重要で革命的なインパクトを与えたものは、19世紀における顕微鏡の発明。
- 人類はミクロの世界（組織学）へ足を踏み入れることになった

- 現代病理学の父と称されるRudolph Virchow (1821-1905)は顕微鏡を用いて病変の細胞や組織の詳細な観察を行い、**組織病理学**を打ち立てた。
- さらに20世紀に入ると、外科的生検組織を組織学的に診断する外科病理学が主として米国で発達し、病理学は純粋な科学としてのみならず医療検査の一部として重要な地位を築くこととなりました。

- 化学、免疫学、分子生物学の進歩に伴い、病理組織学 はそれらの技法を取り入れてきた。
- 特に**組織化学**の開発により**細胞内の代謝**を知ることが出来るようになり、免疫組織学の開発により**特定のマーカー蛋白質**を用いた細胞の同定 が簡単にできるようになった。
- また、**レーザーマイクロディセクション**と**PCRの発明**により、組織内の特定の**細胞の遺伝子異常**や**遺伝子の異常発現**が**検出可能**となった。
- さらに**in situ hybridization法**の出現により、特定の**遺伝子再構成**や**染色体転座**を検出できるようになり、また**mRNAの発現**をも**組織学的に確認**できるようになった。

- 21世紀の現在、顕微鏡発明に匹敵する大変革が起こりつつある。
- すなわち、ヒトゲノムプロジェクトの終了とともにヒトゲノムがすべて解読されその全体像が明らかになった。
- DNAマイクロアレイを用いることで、**網羅的な遺伝子発現プロファイリングが可能**となり、**対象細胞の表現形質を支配する遺伝子発現を定性的かつ定量的に検出することができるようになってきました。**

このことは、顕微鏡で観察される組織形態学的形質を含むすべての遺伝子発現形質を**遺伝子発現パターン**として解読できるようになることを意味します。

- 顕微鏡の発明以来約 2 世紀にわたって蓄積されてきた病理組織学の学問的根拠がすべてリセットされ、病変で起こっている異常がすべて遺伝子発現パターン変化のデータとしてコンピューター上で再構築される可能性がでてきたということ…
- 10数年前まではヒトゲノムの全解読など非現実的で無謀だと主張していた分子生物学者や遺伝学者が大勢いた

CARE

- 気配りする
- 保護する



生存学







＜ケア＞の多様性を一望する

どの学問分野の小さな窓から見ても、その姿はいつもフレームをはみ出している……医学・看護学・社会福祉学・哲学・宗教学・経済・制度等々のタテワリ性をとことん排し、積極的に“越境”することなしにケアの豊かさをとらえられないと考える著者の刺激に満ちた論考。時代は、境界線引きからクロスオーバーへ！

＊「ケアをひらく」は株式会社医学書院の登録商標です。

シリーズ：シリーズ ケアをひらく

著　　： 広井 良典

ケアの

上野千鶴子

当事者主権の福祉社会

社会学

PTにおける CUREとCARE

医療と福祉

CURE

- 治療する

CARE

- 気配りする
- 保護する

PTにおける

CUREとCARE

医療と福祉

そして

ADVOCATE

ADVOCATE

代弁する

擁護する